

# 読むまじ



● 物語教材は、教科書教材として定評のある作品と、新たに教材化した作品とをバランスよく配列しました。  
 ● 心に残る精選された名作が「ことば・こころ・いのち」を育みます。  
 ● 説明文教材は、情報・環境・平和・伝統文化の継承など、現代的課題を取り上げ、段落構成のしつかりとしたものをそろえました。

## 詩教材一覧

## 物語教材一覧

あいうえおにぎり (ねじめ正一)  
 きもち (さくらももこ)  
 ピンときた! (かえるたかお)  
 いっころ (谷川俊太郎)

にくをくわえたいぬ (川崎洋)  
 どうぞのいす (香山美子)  
 おおきなかぶ (A・トルストイ)  
 あいしているから (M・ニューマン)  
 いなばの白ウサギ (宮川ひろ)  
 夕日のしずく (あまんきみこ)

一年

シーソーにのったら (岸田衞子)  
 雨のうた (鶴見正夫)  
 お月夜 (北原白秋)  
 くまさん (まど・みちお)

たろうのともだち (村山桂子)  
 お手紙 (A・ローベル)  
 きつねのおきゃくさま (あまんきみこ)  
 かさこじぞう (岩崎京子)  
 フレデリック (L・レオニ)

二年

うんとこしょ (谷川俊太郎)  
 ぼくんち (木村信子)  
 夕日がせなかをおしてくる (阪田寛夫)  
 いのち (三越左千夫)

ピータイルねこ (岡田淳)  
 うざぎのさいばん (キム・セシル)  
 わすれられないおくり物 (S・パーレイ)  
 おにたのぼうし (あまんきみこ)

三年

まいにち「おはつ」 (工藤直子)  
 夏の海 (川崎洋)  
 冬の満月 (高木あきこ)  
 ふしぎ (金子みすゞ)

白いぼうし (あまんきみこ)  
 いわたくんちのおばあちゃん (天野夏美)  
 ごんぎつね (新美南吉)  
 あたまにつまった石ころが (C・O・ハースト)

四年

はしる電車の中で (まど・みちお)  
 雪・土 (三好達治)  
 さりさと雪の降る日 (山本なおこ)

カニモトくん (ときありえ)  
 競走 (佐藤雅彦)  
 洪庵のたいまつ (司馬遼太郎)  
 大造じいさんとガン (椋鳩十)

五年

千枚田 (藤井要)  
 だいち (谷川俊太郎)  
 あいたくて (工藤直子)

竜 (今江祥智)  
 紅鯉 (丘修三)  
 まほう使いのチョコレート・ケーキ (M・マーヒー)  
 雪わたり (宮沢賢治)

六年

詩教材の三系列  
 ① 音読  
 ② 解釈  
 ③ 考えの形成・交流

物語教材の四系列  
 ① 音読  
 ② 解釈・読書  
 ③ 解釈・考えの形成  
 ④ 考えの形成・交流

# 説明文教材一覧



**夕日のしずく**  
あんな きんこころ  
しのぶか すまこえ

ある なの。日。  
ひとりぼっちの きりんが、なだらかかを  
かけ上がった、とおくの うみを 見て、いた。  
すると、どこからか、小さな こえが  
きこえて、きた。

「きりんくん、きりんくん。」  
きりんは、草はらを 見まわした。  
「だれ？ どこ？」  
きりんは、小こえに  
なつて、きた。  
「ぼく、こ。ほら、  
きみの、足もと。  
目を、こらすと、  
小さい、あひたちが  
見えて、きた。」

1年「夕日の しずく」



**ピータイルねこ**  
西田 洋一 作  
杉浦 さやか 絵

本当に、きよは学校に行きたくないと、みどりは思った。  
学校に行きたくないのは、きよはにきつたことではない。入学し  
た翌月からずっと。でも、きよは、とくべつにそう思った。  
それは、ほけん当番のせいだった。「朝の会」で出せとけさせ  
をやらべ先生が、けんこかんさつ表という紙に、何が書かむ。  
それをほけんまで持っていくのはけん当番で、きよはみどりの  
番だ。それがいやだった。  
みどりは、休時間も、先生がいつよでないで、うんどう場には  
出ない。学校で一人行けるピエは、ト  
イシだけだ。それもできるだけがまじして  
いる。それなのに、たった一人で、二階の  
「第二組の教室から一階のはけん室まで行  
かなければならぬ」というのだ。  
「たいじょう、行けるわよ。」  
家を出る前にお母さんは言った。  
「元気が出るように、みどりが大好きな緑  
色のワンピースをまじしようね。」  
みどりは小さくうなずいた。いつもそう  
なのだ。お母さんや先生に何か言われると、  
うなずいてしまう。うなずくが、いざとな  
るとできないのだ。

3年「ピータイルねこ」



**宇宙時代を生きる**  
野口 照一

「二〇〇五年七月、ぼくは六人の乗組員とともに、スペースシャトル「ディスカ  
バリー」に乗って、アメリカ・フロリダ州の梅田AS「ケネディ宇宙センター」  
から、宇宙に飛び立った。宇宙飛行士に選  
ばれてから半年間、宇宙飛行が決まってから四ヶ月、いやな生れてから四十年  
間どいていていくのには、ついに来たしんかんだった。  
スペースシャトルでは、一九八一年の初飛行以来、宇宙飛行士たちが乗組  
した。宇宙遊覧船や人工衛星を宇宙空間に放出したりする。さまざまな  
研究が行われてきた。このときは、スペースシャトルの百十四回目の打ち上げ  
である。

ぼくたちは、十五日間宇宙にいた。その間、地球の周りを二百十九回し  
た。スペースシャトルのさまざまな実験や調査の他に、アメリカ、ロシア、  
カナダ、ヨーロッパの国々、日本など計五か国を回り、すべて宇宙で動  
き回して、宇宙の研究など、いろいろな宇宙ミッションに力をこめて  
こなして、重要な任務をいくつも行った。

6年「宇宙時代を生きる」

しっぽしっぽ (堀浩)  
ぼうしのはたらき (横矢真理)  
なにができるかな (中村智彦)

つばめのすだち (本若博次)  
たねのたび (中西弘樹)  
紙パックで、こまを作ろう (今井美佐)

米と麦 (吉田久)  
「農業」をする魚 (新田末広)  
身ぶりのはたらき (東山安子)

打ち上げ花火のひみつ (冨木一馬)  
月のかけ絵 (藤井旭)  
じゃんけんの仕組み (加藤良平)

「十秒」が命を守る (松森敏幸)  
動物の「言葉」人間の「言葉」 (池上嘉彦)  
コウノトリが教えてくれた (池田啓)

宇宙時代を生きる (野口聡一)  
「なべ」の国、日本 (渡辺あきこ)  
猿橋勝子 (堀切和雅)  
二十一世紀に生きる君たちへ (司馬遼太郎)

- 説明文教材の三系列
- ① 音読・解釈
  - ② 考えの形成・効果的な読み方
  - ③ 交流・読書